

## (課題名) 帝王切開術後鎮痛法としての transversus abdominis plane block の有効性についての後方視的検討

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

### 【本調査研究の目的】

高齢妊娠に伴い帝王切開が増加しています。また、生活習慣の欧米化などにより深部静脈血栓症 (deep vein thrombosis, DVT) も増加しています。帝王切開術後の DVT 予防、抗凝固療法の考え方の変化に伴い、術後鎮痛法としての硬膜外麻酔は回避されることが多くなってきました。しかし、術後鎮痛強化は DVT の予防のみならず、早期離床、母子関係の構築、産後うつ予防にも重要です。今回、母乳移行の最も低い局所麻酔薬を使用する腹横筋膜ブロック (transversus abdominis plane block, TAPB) の有効性について後方視的検討を行います。

TAPB は良好な術後鎮痛を得られる場合、術後鎮痛強化により、早期離床や早期新生児ケア、DVT および産後うつ予防に期待ができます。また、鎮痛剤リクエスト回数が少なくなることで術後管理スタッフや医師の負担の軽減できます。

### 【対象】

2022年8月から2023年7月までに当院で帝王切開術を実施した症例を対象とします。

### 【調査項目】

TAPB実施する症例とTAPBを実施しない症例の疼痛スケール、術後投薬回数、手術終了から初回投薬までの時間を比較します。治療や検査を追加することはありません。

なお、必要な情報のみを統計資料として集計し、患者の名前など個人を特定できる情報が明らかになることはありません。

### 【研究期間】

承認日から 2023年 8月 20日

(調査状況により調査期間を延長する可能性があります)

### 【研究機関・組織】

研究責任者

大西 洋子 産婦人科

地方独立行政法人 市立吹田市民病院 産婦人科

〒564-8567 吹田市岸部新町5番7号

TEL : 06-6387-3311 (代表)